

調査研究終了報告書

研究分野：感染症の発生拡大防止及び食品の安全性確保に関する研究

調査研究名	レジオネラ宿主アメーバの公衆浴場等での分布と生態に関する研究
研究者名（所属） ※ 〇印：研究代表者	〇村上光一，野田多美枝，濱崎光宏，堀川和美，石黒靖尚（病理細菌課）， 遠藤卓郎（国立感染症研究所）
本庁関係部・課	生活衛生課
調査研究期間	平成15年度 - 16年度（2年間）
調査研究種目	1. <input checked="" type="checkbox"/> 行政研究 <input type="checkbox"/> 課題研究 <input type="checkbox"/> 共同研究（共同機関名：） <input type="checkbox"/> 受託研究（委託機関名：） 2. <input checked="" type="checkbox"/> 基礎研究 <input type="checkbox"/> 応用研究 <input type="checkbox"/> 開発研究 3. <input type="checkbox"/> 重点研究 <input checked="" type="checkbox"/> 推奨研究 <input type="checkbox"/> ISO推進研究
ふくおか新世紀計画 第2次実施計画	大項目：子どもや高齢者と生き生き暮らす健康社会づくり 中項目：県民の健康的な暮らしづくりの推進 小項目：疾病・予防対策の充実（感染症対策の推進）
福岡県環境総合基本計画 (P20,21) ※環境関係のみ	柱： テーマ：
キーワード	①アメーバ ②レジオネラ ③アメーバ対策 ④浴場 ⑤衛生管理
研究の概要	
<p>1) 調査研究の目的及び必要性 近年、公衆浴場（普通浴場，ヘルスセンター，スーパー銭湯およびサウナ風呂などの施設）における，レジオネラ感染症が問題となっている。レジオネラは，これら浴場の温湯の中で，アメーバ等を宿主として存在すると考えられている。このため，本研究は今まであまり報告の無い浴場のアメーバの分布や生態について明らかにし次いでアメーバを制御することを目的とする。本研究を推進することはレジオネラの制御にもつながり，必要性が高いと考えられる。</p>	
<p>2) 調査研究の概要 県内の公衆浴場のアメーバ汚染状況について把握するため，公衆浴場の試料を検査した。具体的には，浴場の設備の違い，水質の違い，管理方法の違い等を考慮して試料を採取し，培養法によりアメーバを検出した。検出したアメーバは遺伝子検査で種を同定した。設備，水質，あるいは管理方法でアメーバの汚染状況に相違があるか検討した。同時に試料のレジオネラ検査を実施し，アメーバとレジオネラとの関係について検討した。検討結果を基にアメーバの制御方法について模索するとともに，浴場のレジオネラ汚染対策方法についても模索した。</p>	
<p>3) 調査研究の達成度及び得られた成果（できるだけ数値化してください） 達成度：90%以上 得られた成果：県内38施設のアメーバ汚染状況，レジオネラ汚染状況が判明した。 これらの汚染が起こる設備あるいは運営上の問題点を把握した。</p>	
<p>4) 県民の健康の保持又は環境の保全への貢献 アメーバ，レジオネラ汚染があった施設の内，3箇所について実際に現地へ行き，保健福祉環境事務所担当者とともに対策について考え，提案し，事業者へ実行していただいた。これにより，当該事業者はもとより，保健福祉環境事務所担当者の見聞も広がり，間接的に県民の健康保持に役立ったと考えられる。 このほか，保健福祉環境事務所検査課職員への研修を通して，技術と知識を伝達し，これにより保健福祉環境事務所における浴場の衛生管理事業については県民の健康保持に役立った。</p>	
<p>5) 調査研究結果の独創性，新規性 アメーバの調査は報告数が少なく，新規性が高い。特にアメーバの同定にポリメラーゼ連鎖反応を用いた遺伝子診断を用いる技術は，最新のものである。</p>	
<p>6) 成果の活用状況（技術移転・活用の可能性） 保健福祉環境事務所検査課職員の研修時に，アメーバの分離法，レジオネラの検出法について技術移転している。</p>	